

令和8年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

ミクロネシア諸島自然体験交流事業

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

日本とミクロネシア諸島の国々の青少年の国際交流を通して、グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年を育成することを目的とする。

2. 事業の概要

（1）後援

吉備中央町

（2）期日

事前学習会：令和8年6月6日（土）

受入：令和8年6月18日（木）～6月22日（月）4泊5日

（3）参加者

① 募集人数

ホストファミリー15家族

② 参加人数

ミクロネシア諸島参加者 28人

ホストファミリー参加者 54人（15家族）

（4）会場

事前学習会：岡山ふれあいセンター

学校訪問：吉備中央町立加賀南小学校

（5）講師等

事前学習会（英会話教室） 池田 好美 氏（YoshimiEnglishSchool）

（6）企画・運営のポイント

- ① 各プログラムでの学びを深められるよう、活動の概要だけでなく、「なぜこの活動を行うのか」という目的についても説明し、参加者が活動の意図を理解した上で取り組めるよう努めた。
- ② ホームステイ中の過ごし方の参考となるよう、ホストファミリーに対し、参加者が東京プログラムでどのような活動を行ったかを事前に伝えるなど、現地での交流につながるよう情報提供を工夫した。
- ③ 参加者一人ひとりに記念として手作りの「ウーリー」のバッジを用意した。（ウーリー：吉備青少年自然の家のマスコットキャラクター）また、ホストファミリーとのマッチング時に活用することで、交流のきっかけづくりにつなげた。

- ④ 新たに岡山県青少年教育センター閑谷学校と連携し、特別史跡旧閑谷学校の教育資産を活用した「講堂学習」を設けることで、参加者の日本文化体験をより深めることができた。

3. 活動の内容等

(1) 日程

日数	日付	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目	6/18 (木)	12:00頃 岡山空港着							移動	昼食 閑谷学校見学	移動	入所式 宿泊準備	夕食	入浴	休憩	就寝		
2日目	6/19 (金)	就寝	起床・洗面 清掃	朝のつどい	朝食	準備	学校訪問			昼食	晴天：カッター活動 荒天：焼き板・室内活動	休憩	夕飯のつどい	夕食	暗闇探検	入浴	就寝	
3日目	6/20 (土)	就寝	起床・洗面 清掃	朝のつどい	朝食	受付	顔合わせ	ホームステイ										
4日目	6/21 (日)	ホームステイ							交流会	振り返り	自由時間	夕飯のつどい	夕食	片付け 荷物整理	入浴	就寝		
5日目	6/22 (月)	就寝	起床・洗面 清掃	朝のつどい	朝食	退所式 準備	岡山空港 送迎	岡山空港 自由時間 搭乗手続き	12:00頃 岡山空港発									
		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22

(2) 活動の状況



【閑谷学校見学】



【閑谷学校見学】



【食事】



【学校訪問】



【学校訪問】



【学校訪問】



【カッター体験】



【花火】



【レセプションパーティー】



【レセプションパーティー】



4. 成果・謝 【吉備最後の夜】



【出発】

(1) 満足度（日本人参加者）

非常に満足：50% 満足：50%

(2) 参加者の声（日本人参加者）

- ① 私自身を含め、子供や家族がミクロネシアに興味をもったこと。子供がアプリを使いながらも、コミュニケーションをとろうとしている姿が印象的でした。直接もっと話せたらいいのにとつぶやいていたので、語学や異国に興味関心をもつとてもよい機会になりました。また、同年代の子がホームステイにきてくれたこともあり、彼らが同じ年代で日本にきてくれたことにとても驚いていました。とてもよい刺激になりました。
- ② 言葉があまり通じなくても、楽しく遊べて、微笑ましいです。また会いたいし、これから英語をもっと勉強したいきっかけになってくれました。ありがとうございます。
- ③ とても貴重な機会をありがとうございました。でも、2日間だとあっという間で時間がないなあと感じました。
- ④ 小中学生のホームステイ受け入れはあまりないのでとてもよい事業だと思います。今後も続いてほしいです！短時間でしたが、とても楽しい時間を過ごすことができました。ホームステイの時間は短かったですが、ふりかえり会で一緒に踊りを踊ったり、ふれあいホールで遊べたのが楽しかったです。

(3) 成果

- ① 3年目にして初めてカッター活動を実施することができた。活動中は掛け声を工夫するなど、参加者が一体感を持って取り組めるよう工夫し、力いっぱい活動を楽しむ姿が見られた。
- ② 吉備中央町立加賀南小学校との事前打合せにおいて、参加者が日本に来て知りたいことや興味のあることを共有した。事前に参加者の関心を伝えることで、当日の活動内容や交流に生かされ、参加者にとって有意義な学びの機会となった。また、互いのことを知った上で交流することで、参加者と児童との会話や関わりが深まり、より充実した交流につながった。
- ③ 様々な体験活動を通して、参加者が職員やホストファミリー、他の参加者と積極的に関わる場面が多くあり、日本での生活や文化に触れながら交流を楽しむ姿が見られた。

(4) 今後の課題

- ① 事前にミクロネシア諸島の参加者が日本でどのようなことをしたいのか、何に興味を持っているのかをより具体的に把握することで、参加者の希望や関心に沿った活動の準備につなげる必要がある。
- ② 事後学習の時間には、参加者とホストファミリーが互いに手紙を書く機会を設けることで、ホームステイや交流を振り返るとともに、言葉では伝えきれなかった感謝や思いを伝え合うことができ、交流のまとめとしてより有意義な時間になると考える。

- ③ 全体のプログラムについて、吉備青少年自然の家スタッフと本部スタッフが事前に十分な情報共有を行い、共通認識を持った上で運営する必要があった。今後は、事前の打合せをより充実させ、役割分担や当日の動きを明確にすることで、スタッフ間の連携を強化する必要がある。

担当：企画指導専門職付係員 福永 萌